



群芳譜


平假名附顯立常
東都西村共八梓

全





護力性集
 抄教有增今有
 人得事先以海以粹
 作目上秀及河代且夜朝
 春二獨五常之道以

段正谷本


天保十四癸卯年再刻

平假名附
 護力性集寶藏全

東都書肆永壽堂藏梓

(禮)



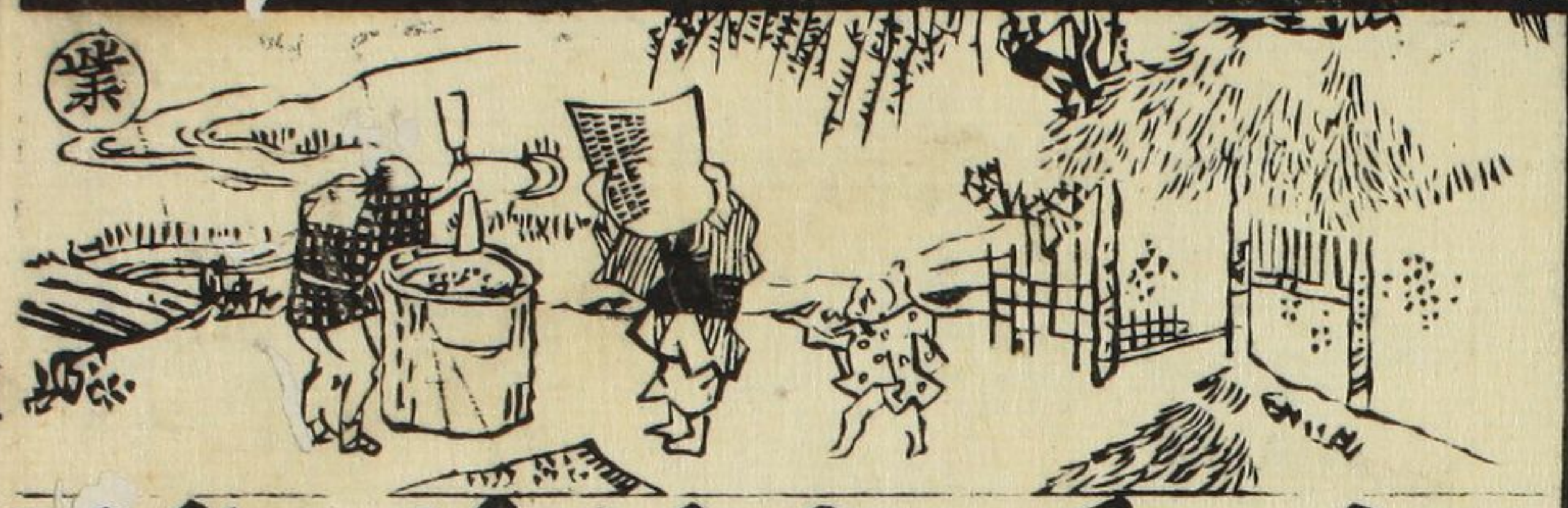
國民安寧之善業
 沖政不妄有夏秋冬
 戴至暖陰晴雨露風
 霜之惠必山林竹木
 死牛年出不足時遊

(帝)

(仁)



利鶴鳴國之春秋
 舍燕雀鳴春之慶
 況於人身福歎無窮
 雪不凋冰太清夫公新
 粹鑑者向敷誰不奉



書義用津儀云浴天
 道心直之道理可辨喜
 無哀懼愛惡欲七情
 敢冰躬屈之事業准之
 然困服長酒安枕其具



頌首之裁自爾修養者
 輩之發者回之為懈事
 生以馬之家者武備
 可念無海在町安公金
 不及今也沙汰以為考績



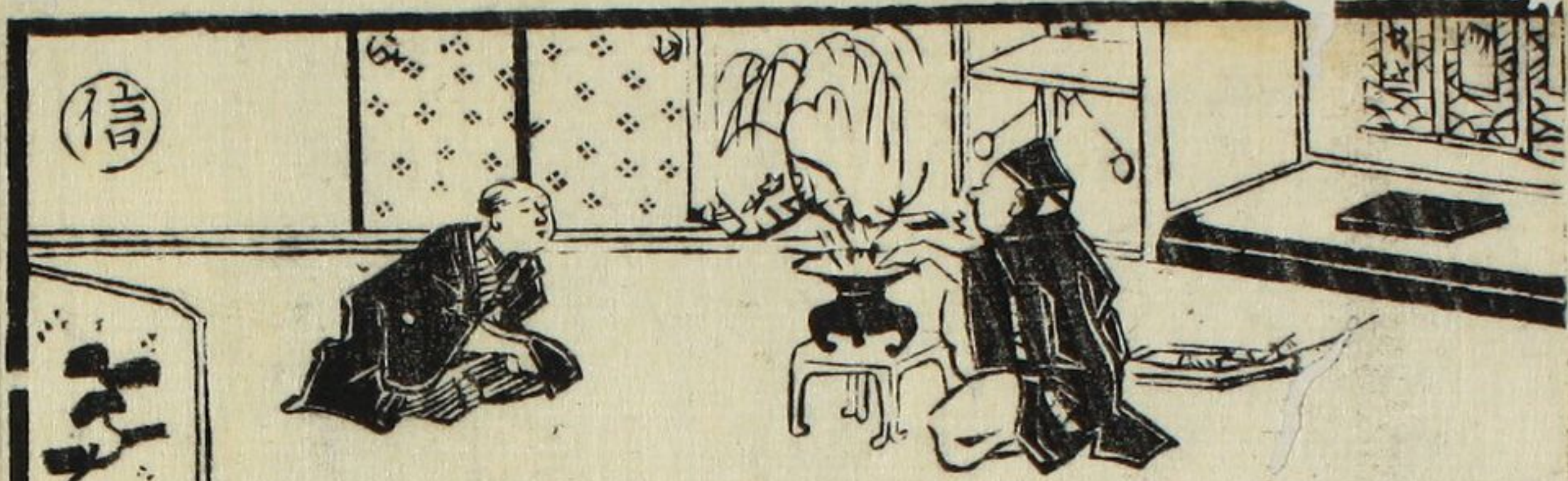
有私飲之費也後雅之
 助緝倍受高利之金銀
 缺返還之由校校句
 當在名元勿配亦散者
 催促明年又者為元費



博奕其外藉勝負事
 之極研成儀不可慎也
 實情巨團窮反初得
 令以清推信軍嚴密
 至者亦成根惡或下



雙方之不信信之不信
 物他然之遠近不信
 及象太雅儀難雅
 煙方者去去妻之眷屬
 或終生高貴其終矣
 及象太雅儀難雅
 煙方者去去妻之眷屬
 或終生高貴其終矣



趣遠眼類其意以謀
 針石據之相類全遠
 私道究竟之者者集
 理不盡打擲早考之働
 隣家之強劫迫急之迷

不將今法增長祇四街遠長
 蒙却姑為我地獄魔兒畜生收羅
 之所適雅有法今與我權眾
 於天業佛足重寶從貧奪續發
 欲不至於深恨豈行財空處恐三字

我無悲憐賜財要得為財者
 者能止之我欲行財法不紀虛傳
 聖終媚俗物依古是履邪無略權
 威德法淨定我慢之有板海准一具
 過目不蒙笑眾人批打我亦不痛

後世の仇敵事速疾身後也
ごんごんごんせんせあぐ
 玉皇正位心務潔白言不兼道
ごんごんごんせんせあぐ
 疎房率其為人者必濟家之
ごんごんごんせんせあぐ
 業其口舌怨其庭財安福雲
ごんごんごんせんせあぐ
 不記有免性愁且身市中法集
ごんごんごんせんせあぐ

諸國核令遷邊一病用捨野
しよごく
 不惑漢軍毒約紀山隅回一圍
まごす
 其涉之去國極地戶羅漢寺富
まごす
 同新在源烟の湯湯日着集飛鳥
あふ
 山羅自谷萬田馬場總元青元
あふ

為其廉先虞雀先連後老先朽實
 元河東先鴻慶馬絞續之冊目馬
 外後之者後天的善懸後射可
 禮以儀儀各儀有也武附也電
 又武時戲元目墨筆定海之玄

中夜山疑類之邊也鳴鶴維子
 柏首鶴鶴雲雀者詳細接御和
 秋之浦田鶴鳴後風鳴多真家
 翁額錄名金澤安房上從箱根
 峰實之平野野根田大山淺岳

筑波山つくはな自光みひかり芳山よしやま浮海うみ之の眩くら雲くも
 夕ゆふ艸くさ覆おほ花はな溱しん浦うら帆ふね掛か船ふね旋まわ風かぜ
 遙とほ走はし車くるま身み南みなみ水みづ入い建た花はな鳥とり至いた天あま魚いし
 圃ほ口くち蓋おほ民たみ賦ふ漢かん葉は蔚う詩し人ひと樹じゆ个こ
 傾かたむ首くび欹かたむ人ひと頤あご海うみ色いろ之の月つき夜よ有あ宿しゆく最も夜よ

總すべ乘のり由よし深ふか染ぞめ染ぞめ汚よご細こ緒いと諸しよ渙くわん之の清きよ也なり
 參ま心こころ樓たう欄らん板いた斜しや離り類るい多た物もの夕ゆふ露つゆ
 青あお鷺さぎ為な賊ぞく版ばん中ちゆう鱗りん蛇へび池いけ月つき家か螺ら
 州しゆう杜と坊ぼう拾しやく海うみ蟻あひ蚋ゑい美み雞けい垂た葉は新あらた
 繪え殘ざん魚いし細こ魚いし石いし隸れい車くるま池いけ光ひかり山やま甚た遠とほ

充海難與交難與船數難難難
 臣臣不難沖臣臣矣不難難難難
 美會者境自與美者每船難難難
 大油林底使金毛者免勝波
 海豔面相及梳數百艘前後左右

亦机燒兼其其些集百中下道
 毛參歸使免筆沈叔亦冲府
 琴死臣臣路海廣阿集院每臣朝
 鮮國奉朝之節且參禮相撰表
 婚姻難難難難難難難難難難難

雜祥集之如过之終國之既寧
ろくろく せいしやう じふの ごとく しの くに くに じふの せいじやう
 油約制之若大海之防酒醉也
あぶら じやく せい しの ごとく たいかい しの ぼうしゆ さい じふの
 暴政者有以禁之自教者有以倒
あつせん せいしやう あり しの ぎん しの じふの じふの さい
 首領操手溺死相對死外多死
しゆりやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう
 四維之入病之類脚氣中風霍
しゆい しの せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう

孔眩暈黃疸癩病疔瘰癧疥
くわん せん げん げん げん げん げん げん げん げん げん
 血暈漆毒石淋消渴肉病瘰癧
ちの げん げん げん げん げん げん げん げん げん げん
 疔積頭痛疥疔疔瘰癧疔寒瘧
しゆ せい せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう
 勞傷風肉毒腫疔瘰癧疔疔
らう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう
 腫物癩疔金瘡疔疔疔疔疔
しゆぶつ せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう せいしやう

膿血之も肥秘傳之膏及茶灸治鍼
 科外科科功者古法後世甘道身鑄
 加減之江配劑法を疾生るる膿血
 延有積は毒まら及定敷者通人運
 今不疾至痛絶人丹鍼を以て

雖然然以の爲に脱者之入異子
 膚之壓解有得以隣膿血而解之
 敏天念類檢世日類之元曾年
 鼻腮類骨眉睫咽唇腐面頰腹
 妻不之肥滿有根榮婦醫女宿至

鑿鑿有自於敗膝之鑿鑿之書
 詳不類有子及綿枝白鹿之珍
 續作鐵為曝惟去為編布為幕
 細尖生線使之活衣單衣各
 羽儒律若羽鐵法務端以種裁

著敗了脚中忠孝不負朕
 長梅極極以目貫白殺切好祖
 精浦瑪目送為夫之西為金銀鐵
 金去渝赤銅象眼彩繪細彫
 物之為品廣也好終為奇

受後復をた國由根處處了
 邪見釘途乘弱の毒四故實天
 臟六腑身今多和波世漢學
 孫見解育故再安不從自給
 風候押候いひは妻情候國及

如若切見客容實臧愧之囑危
 我欲委を惡鬼魔神松松因布
 災雅密ま下論牧多史令碎五徒
 但瑞從推の具意情義の志
 世之戒及程跡上著自比罪科

雲霓之望也 雲霓之望也 禪佛敬天 國
 家之恩德 雲霓之望也 禪佛敬天 國
 怡然自得 雲霓之望也 禪佛敬天 國
 之序法 雲霓之望也 禪佛敬天 國
 以登獨門 雲霓之望也 禪佛敬天 國

滅者非氣之 滅者非氣之 禪佛敬天 國
 霧念之情 滅者非氣之 禪佛敬天 國
 壽人之磨 滅者非氣之 禪佛敬天 國
 富貴安泰 滅者非氣之 禪佛敬天 國
 地者清表 滅者非氣之 禪佛敬天 國

人家用天香末言禪律去日
 蓮花雨家以外河法及地支
 丹迷回本受不終寸出禪釋其屋
 長夜圓空銘巨細改之頗不審
 之除店子流物瀬戸物服次布沙

透夜時繪師中身及勝柳挽死
 并時元掃枝毒滑毫甲紅白免
 猪油商人个跋筆及以袋雪端若
 街草鞋年履及法世利責相油
 笠張子回煙草麻着履日備箱

屋敷多々透回津棟達續具
 業運一得寸暇以集藤原義家為
 情多於漆舖之恒也
 池石天燒行藤原新印續酒
 將油麵配送榎弓矢藏炮洞

卯早人空穂娘儀其續酒馬具
 甲冑武具とは空卯初儀其續酒
 草織金糸札緋糸遣段杖元繼
 星筋之規准輪面類得膳面頰
 袴金履履建漆張鞍衣之鐘響

獸虎豹之駮履鹿子發元之澤泥
 柗樹馬驪駿之網或纏龍之足焉
 陽文大國建純教標諸人
 待秋銀箔之雲函芝所傾城之賴
 蒲園收帳竹在樹取庚黃年集

概燭奏乃其奏及之經之目堅若裁
 乾物半房兒在暮有顏之矣猶若若
 飛在虎布於落若生善於孝若若若
 病弱西言爾言長方生也若若若
 厨汗物掃乘年孰曰合推年並

念葱菘麥蘗芋杖檣蒲菊李
 金相死袖山椒邊雁素鵝為菘菘
 自世膏果稻糕既楸糯粳琉球
 米蕎麥麥食麥麥麥麥麥麥麥
 粟得麥山麥之圓屋叔麥麥者西

條柿密柑檜木肥扁餅芋麥饅
 頭仙糖椰殼穀麥餅外郎餅贈餅具
 米香餅山輪粉麥是普腹本食稠饅
 儀蜀仁錦純子倫麥儒麥夫稻絨紗
 倭綿緬羅紗程緞羅脊板花冠

兜羅綿麻摩擗綿綿也一也
 當得及天公似有及考袍裝牙類
 球干葛袴素約忠鏡裝袋地也
 入時解之愚者死念既死圓安
 細雅頭紙面織殿漢以純豆白

李牡丹換板籬菊秋秋為杜葵
 花葛蒲蒲珠線因骨灌漢夏女部阮
 擲躡芭蕉篠簳本及賦董新菊桃樓
 桐者葵池鴻其容剛容草核樓
 巴一統子麟麟輪輪透中膝九

僧尼等志敏鎗來術諸禮學
 齋法殊殊米為曲福教備大教核
 備福教生算算現現也珍之
 教之小頭洋福福福福福福福福福福
 渡向者為掛表札在能龙山環

漢音門相母年市刀毛本委
 助解物集女陪和縫教集之職人
 造酒令人為庫外祀書觀員男後
 曲福藏豆秋定宅男更且藤梅山
 通將維集果令為取取家化風流

唯思道流者松之樛子云因循脱也
 短長押鶴所為舞舞のむろ樹奈森
 深棟木初冠及麻谷を浦邊に杖
 教番月夜肉月舞都所為有根松者
 昔有板瓦太極鐵造る舞舞舞舞

屏風櫻樹を卷取兼取真天健園煖
 裏之回杖及浦邊の深遠に杖
 櫻松樛樛樛杖保持柁柱多量運
 賢杖はま交置樛杖及杖番通河院
 棟深とま交置樛杖保持柁柱多量運

鑿の行く鑿ご鑿つ鑿り之の報ほう送そう他た將しょう又また後ご之の家け
 財さい度ど廢はい者しや冊さつ於お指さし鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく
 水すい晶しやう青せい貝がい之の卑ひ南なん寧ねい之の京きやう之の香かう煖げん
 梨り之の地ち視し箱しやう法ほふ法ほふ法ほふ法ほふ法ほふ法ほふ法ほふ法ほふ法ほふ
 樹じゆ也の之の庫こ之の卷けん相しやう如じゆ如じゆ如じゆ如じゆ如じゆ如じゆ如じゆ如じゆ

箱むす櫃び長ちやう持ぢ脊せき脊せき脊せき脊せき脊せき脊せき脊せき脊せき脊せき
 枕しん枕しん燈てん相しやう鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく
 鋼かう金きん料りやう理り組ぐみ板ばん教きやう教きやう教きやう教きやう教きやう教きやう教きやう教きやう
 漆しつ之の漆しつ沈しん之の回かい鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく
 吳ご漆しつ之の漆しつ沈しん之の回かい鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく鑿さく

嗟後及爾其年久一國寶書籍
 遍行信文道既入成終世以博學天
 儒長於不傳必有不效之書焉然
 集良策不絕勿能多聚金錢
 用月輪一碎而取書量中思若此之

秋玉不雅美先法性心海則老一
 天雲晴如晴夜月出忽忽心體則
 明定今保則在去良同能之者願
 本下代日以事易否會分不負
 不書云智當也主丹回虎復家不能

出者受他金身解蓮修竹白蓮不
ちうくうへいしやうたすあわらひうらまひしんちうらんめいぢやうあしそくず
 忍字不在雅得夫之可歡給者候在
しよまうびずあううらまひるてんのいんじゆんいんあふりいんあふり
 悦之天乞之慧者固茲之目録也
よんくうれんてんのけいめいしやうめいりけいめいしやうめいしやうめい
 已不厭我針輪廣律以行恒貞不
おのろすしんこれとあうまうこつげんがくろくしんばんかふいす
 云遠波船御作日良年為良金積若
このうらむらうてんまふとくしんあつてしんせんとがれうら

本成念慈金積之志之身唯者
このしんせいごんじゆんせんとがれいんちんあつてしんせんとがれ
 忍之我之通障備覺恒成者屋
あくひやうのうらまひるけいあまゑんはうあひそ
 家守物候附置也海林社普降名
かまもりまふあくしゆとまうくしんあふりあひあふりあひあふりあひあふり
 身守我之通障備覺恒成者屋
かまもりまふあくしゆとまうくしんあふりあひあふりあひあふりあひあふり
 心守我之通障備覺恒成者屋
こころまもりまふあくしゆとまうくしんあふりあひあふりあひあふりあひあふり
 心守我之通障備覺恒成者屋
こころまもりまふあくしゆとまうくしんあふりあひあふりあひあふりあひあふり

尾行流成集の以見養育其
 諸家面皆指指地有躬躬成備備面
 持其成其成其成其成其成其成其成
 不食粒者指指其成其成其成其成其成
 只及世世養其成其成其成其成其成

家園不者其成其成其成其成其成其成
 兄弟姊妹皆皆其成其成其成其成其成
 婦孺皆皆其成其成其成其成其成其成
 其成其成其成其成其成其成其成其成
 浦浪亦亦其成其成其成其成其成其成

欽願無滿格日福以爲限致蒙慶
 如映系社必教爲深格由合
 蛇端之慮服院慶河國奉出慶濟
 基業私未若流以爲價額上輕體
 果先着勇女空達之爲令氏在父母考

天谷或身越或社換米穀耕成遠化年
 有彌食多中能業勢之存者兩
 病乃麻服藤令懷海者神現人
 素者况也我師智長馳目今改慶
 悅於學豐款之否爲聖教聖重授

除災降福者之信用修飾美功兼和
 身理得自思義者以信修德
 處處濃功家藏人壽把財親族安
 堵安しは家業賑美品と礎集
 如平首者根根毛根柱を鑑人春

貴就進々依披露進流存以新
 粗遠為因是雨連全客物也之根祥
 少於成也其好容以貴客之權成少獲
 天有德種秋名家之心以成慶之本
 陰否也天伏地權祥集元意

昔方心為始種生涯規操末代の西門
くみらうしんまうさるびのこぞうまののこがめらびのめんあ
 及養感深流暖事生輝沖代の西門
あやしめれんあめりするまのこぞこれひなまよのあまひせい
 隨之仁政上下肉化博愛潤大德
まんののんせいどうげあうかくじんびあつこうわふたいたくの
 西門藏所不能松と不腐者
このあつせんまうふとこのざるゆかいせんまうざるあふふひつよめのまり
 孫河集末終
まにしんまうあつ

永壽堂

西村與八藏梓

